

2016年3月期決算説明会

2016年6月16日



三光産業株式会社
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

目次



会社概要	p.3
前期のトピックス	p.8
前期決算概況と今期予想	p.12
今後の事業展開	p.19
補足資料	p.32

会社概要

主な製品



タッチパネル関連製品に成長ドライバーをシフト

シール・ラベル印刷関係

ロゴパッチ

Sanko Sanyo

インジケータパネル

定格ラベル

性能表示ラベル



電池シール



タッチパネル関連製品

※画像表示パネルの「印刷段差吸収技術」において、特許を取得

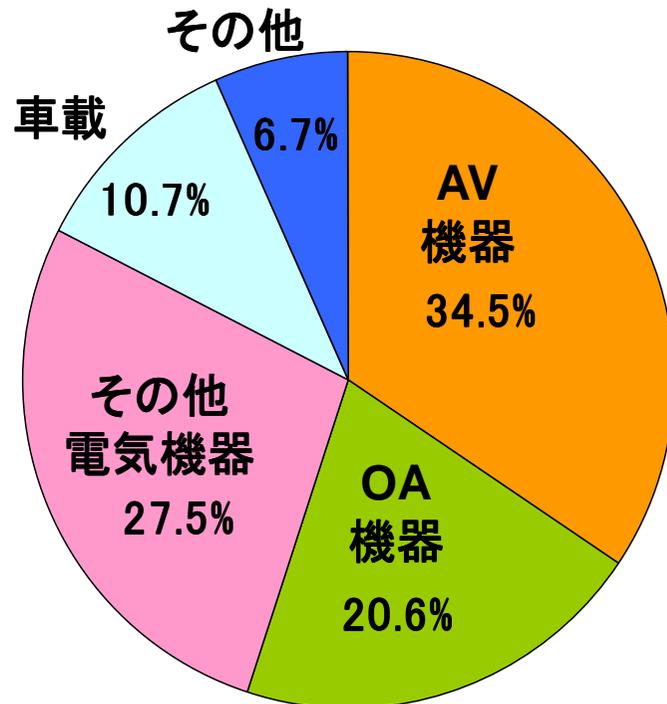


売上構成

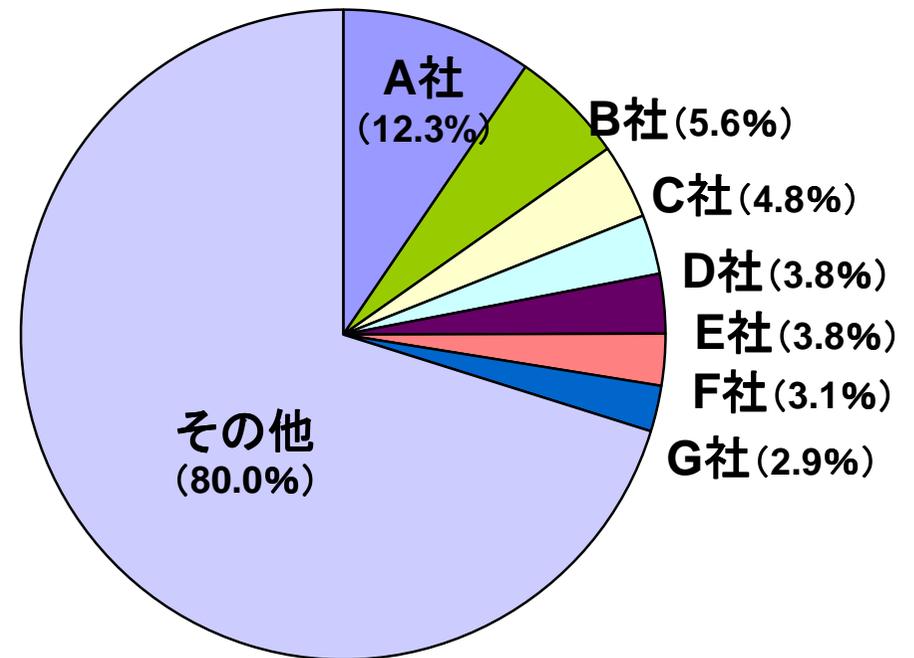


2016/03期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



アルプス電気 イクヨ 翔栄 ソニー 大日本印刷 凸版印刷
長瀬産業 パナソニック 日立製作所 富士ゼロックス
三菱電機等 約1000社(敬称略) (五十音順)

生産拠点



従業員数:2016年3月現在 生産実績:16/03期 単位:百万円

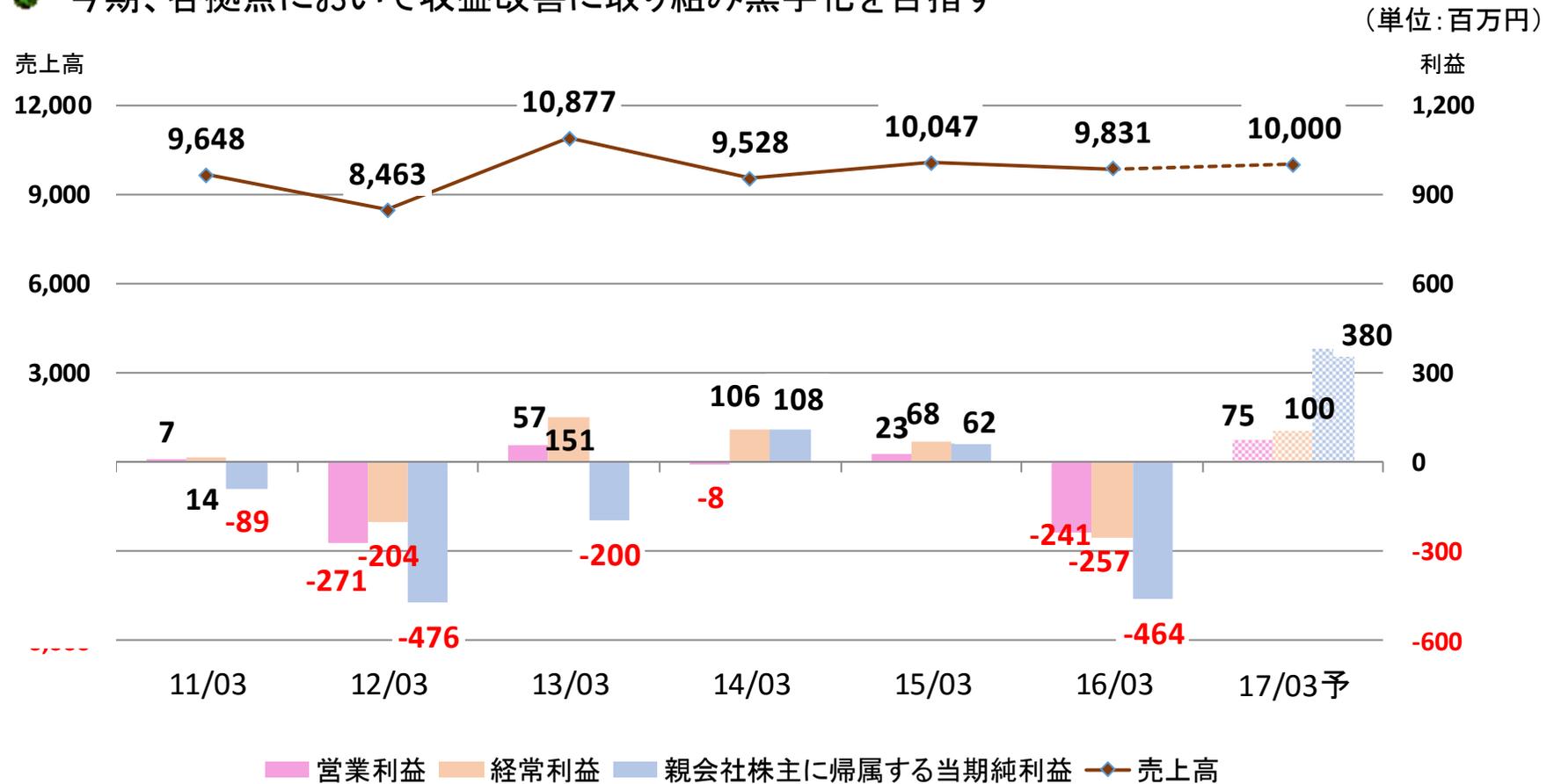
	所在地	印刷方式	建物面積 ^m (従業員数)	生産実績
長野工場	長野県佐久市	シール・輪転機主体	2,835 (39)	275
川越工場	埼玉県川越市	オフセット主体	4,578 (26)	443
大阪工場	大阪府東大阪市	シール・シルク主体	948 (15)	350
マレーシア	セランゴール州 シャーラム市	シール・シルク・輪転機主体	2,986 (131)	357
中国深圳	中国深圳市	シール・シルク・輪転機主体	2,200 (280)	1,396
バンコク	パトゥムターニ県 クローンルアン郡	シール・輪転機主体	720 (10)	0

※大阪工場は賃借物件

業績推移



- 緩やかながらも売上高・利益ともに回復傾向にあったが、前期、中国の収支悪化により一転赤字に
- 今期、各拠点において収益改善に取り組み黒字化を目指す



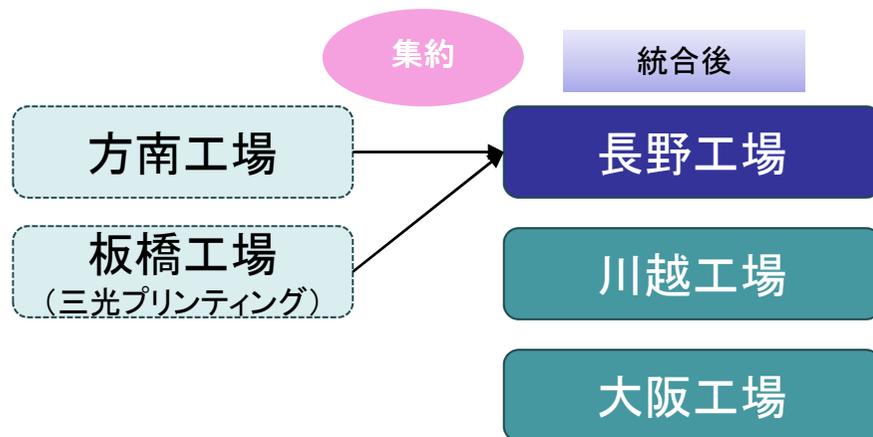
前期のトピックス

国内工場再編



国内製造拠点の統廃合を実施：3拠点3工場に集約（2015年12月集約完了）

- 関東地区のシール印刷部門を長野工場へ集約（旧千曲川工場を増築）
- 各工場の得意分野に特化
- 集約により生産効率を高め、人員も適正規模に



長野工場外観



川越工場の設備導入



生産効率の改善及び受注増のため最新鋭設備の導入

- 最新鋭のオフセット印刷機導入
- 転写印刷機器の導入による、新製品開発

オフセット印刷機



オフセット印刷機



タイ現地法人設立



新会社の概要

商号: SANKO SANGYO (BANGKOK) CO.,LTD

所在地: タイ王国 パトゥムターニ県 クローンルアン郡

設立: 2015年5月

資本金: 2,000万バーツ (1TB=3.70円<設立時レート>)

資本構成: 当社100%

ASEAN域内での受注・製造強化



前期決算概況と今期予想

決算概要



単位: 百万円, %

	15/03期		16/03期			17/03期 計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	10,047	100.0	9,831	▲2.2	100.0	10,000	1.7	100.0
AV機器	3,608	35.9	3,394	▲5.9	34.5	3,400	0.2	34.0
OA機器	2,548	25.4	2,028	▲20.4	20.6	2,100	3.6	25.0
その他電気機器関連	2,447	24.4	2,702	10.4	27.5	2,700	—	27.0
輸送用機器関連	835	8.3	1,055	26.3	10.7	1,050	—	10.5
その他	608	6.0	650	7.1	6.7	750	15.4	7.5
売上総利益	1,848	18.4	1,607	▲13.0	16.4	1,925	19.8	19.3
営業利益	23	0.2	▲241	—	▲2.5	75	—	0.8
経常利益	68	0.7	▲257	—	▲2.6	100	—	1.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	62	0.6	▲464	—	▲4.7	(注) 380	—	3.8

(注) 国内工場跡地の売却により350百万円固定資産売却益を計上

前期決算のトピックスと今期予想

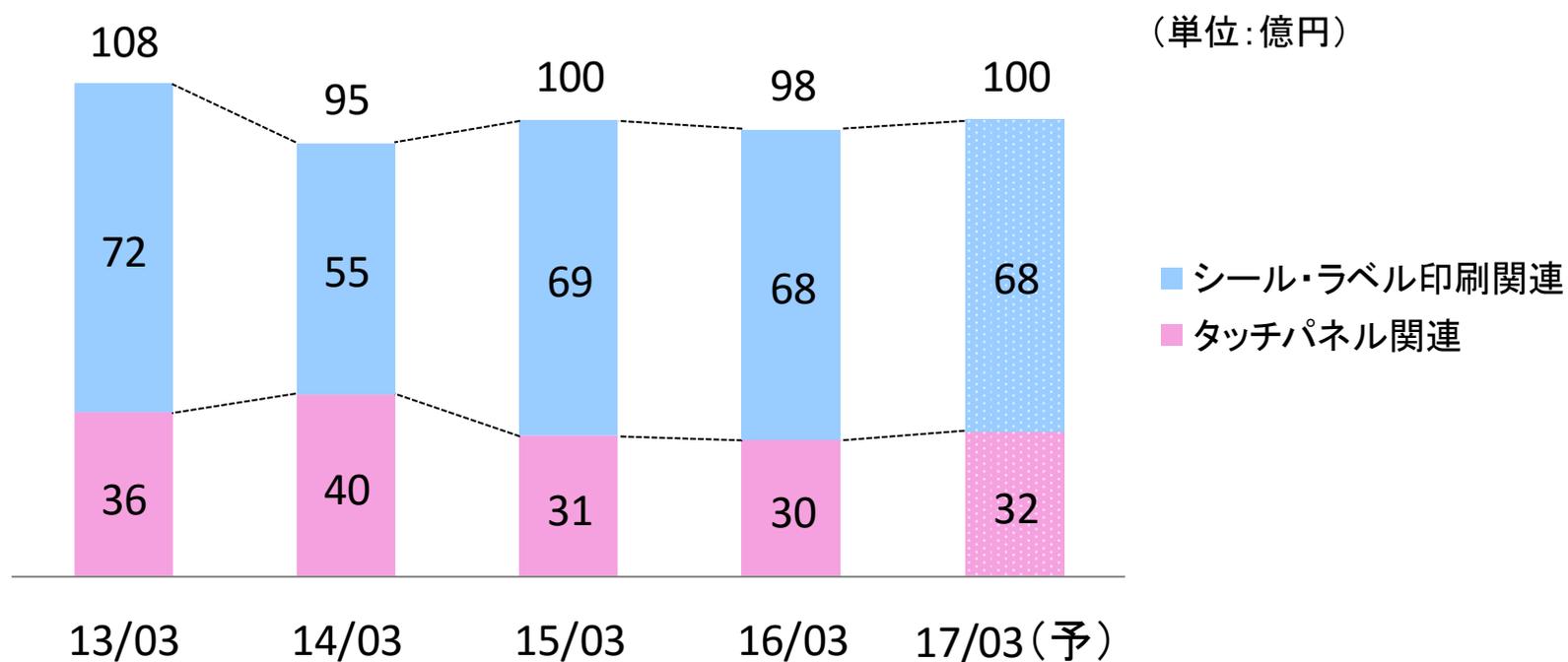


16/03実績 (減収・減益)	売上高	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国経済の減速によるタッチパネル製品の売上減 ● シール・ラベル製品も微減
	利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内は、長野工場統合に伴う一時的コストの増加、並びに川越工場の新鋭機導入に伴う償却負担の増加により減益 ● マレーシアについては対前期比で損失94百万円減 ● 中国は減収及び歩留の悪化並びに201百万円の減損で赤字拡大
17/03計画 (増収・営業黒字へ)	売上高	<ul style="list-style-type: none"> ● タッチパネル関連製品の営業強化とともに、シール・ラベル製品についても取りこぼしのない受注獲得を図り増収を目指す ● 国内・中国・マレーシア・タイの受注活動での連携を強化
	利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内は、設備投資部門への全社一丸となった支援体制の強化により、収益改善を目指す ● 中国は、生産効率の向上及び適正人員配置 ● マレーシア、業績の早期回復に向けた諸施策の強化 ● バンコク、早期の本格稼働

既存・新規事業の売上高



シール・ラベル印刷関連製品(既存事業)と タッチパネル関連製品(新規事業)の売上高推移



拠点別収益



日本

	15/03	16/03
売上高	5,984	6,096
セグメント利益	254	40

- 前期は増収
- 関東圏の工場の統廃合の他、大型設備導入を実施
⇒償却負担、統合による一時費用の発生等により減益

中国

	15/03	16/03
売上高	3,403	3,274
セグメント利益	▲94	▲199

- タッチパネル製品を中心とした減収及び歩留率の悪化により赤字拡大
- 適正規模案件の受注にターゲットを絞り込み、生産効率の改善により赤字解消を目指す

アセアン

	15/03	16/03
売上高	658	459
セグメント利益	▲128	▲94

- マレーシア現法は対前期比大幅赤字の削減(94百万円)するも、バンコク現法の本格稼働の遅れによりアセアンセグメントは赤字
- 今期は、アセアン市場の受注活動強化と、バンコク現法の早期の本格稼働に注力

※2016/03期において、バンコク子会社の設立により、従来のマレーシアセグメントをアセアンセグメントに変更しております。

貸借対照表



	15/03 期末	16/03 期末	増減
流動資産	(7, 563)	(6, 588)	(▲975)
現金及び預金	3, 235	2, 632	▲602
売上債権	3, 254	2, 981	▲272
棚卸資産	943	664	▲279
その他流動資産	131	309	+180
固定資産	(4, 195)	(4, 249)	(+53)
資産合計	(11, 758)	(10, 837)	(▲921)
流動負債	(2, 350)	(2, 116)	(▲233)
買入債務	1, 954	1, 718	▲235
その他流動負債	396	398	+2
固定負債	(399)	(362)	(▲37)
退職給付に係わる債務	319	285	▲33
その他固定負債	80	76	▲4
負債合計	(2, 750)	(2, 478)	(▲271)
株主資本	(8, 467)	(7, 959)	(▲507)
その他の包括利益累計額	(338)	(253)	(▲84)
非支配株主持分	203	145	▲57
純資産合計	9, 008	8, 358	▲650
負債純資産合計	(11, 758)	(10, 837)	(▲921)

単位：百万円

キャッシュ・フロー



	15/03 期末	16/03 期末	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲111	237	349
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲96	▲787	▲690
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲46	▲46	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	111	▲52	▲163
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	▲143	▲648	▲504
現金及び現金同等物の期首残高	3,407	3,263	▲143
現金及び現金同等物の期末残高	3,263	2,615	▲648

単位:百万円

【主な内訳】	(15/03期末)	(16/03期末)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益又は純損失	37	▲459	▲497
減価償却費	222	274	51
減損損失	27	201	174
売上債権の減少額(▲増加額)	▲571	243	814
棚卸資産の減少額(▲増加額)	10	248	238
仕入債務の増加額(▲減少額)	289	▲197	▲486
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	▲135	▲788	▲652
財務活動によるキャッシュ・フロー			
親会社による配当金の支払額	▲43	▲43	0

今後の事業展開

事業環境と経営課題



タッチパネル関連事業

主に日本・中国子会社で展開

- 2019年の静電容量式のタッチパネル部材(タッチモジュール)の需要予測は金額ベースで2014年比115%と伸長する見込み(株富士経済調べ)。
- 韓国、台湾メーカーの台頭によるコスト競争の激化
- 11/03期より本格的に取り組み、13/03期に大型案件の獲得や新規機種への採用などにより大幅に受注を伸ばしたが、その後は中心のスマホ向けは製品ライフサイクルも短く、受注が不安定
- 案件毎に異なる高度な技術・技能が必要とされ、歩留まりの改善等製造面の強化も課題

シール・ラベル関連事業

日本・アセアン・中国子会社で展開

- メーカーの海外生産移管の動きは変わらず、国内需要は緩やかだが減少が続いている。
- 国内事業については、生産体制の再編による固定費削減を狙い、長野工場への統合を実施。前期は統合で一時費用が嵩んだが、安定的に利益が出せる体制ができつつある。今後は受注の安定的な確保が課題
- 海外事業は、今後重要性の増す東南アジアマーケットでの営業力強化と生産体制の改善が課題
- 中国においては、ローカルメーカーとの価格競争等、受注環境は厳しく、収益改善に遅れ

中期展開の柱



- 中長期的な成長ドライバーとしてタッチパネル関連事業の拡大と収益性の向上
 - ⇒①. タッチパネル部材の扱い品目の拡大による受注増
 - ②. 受注の安定化のため、継続的な受注が見込める分野に営業を強化
 - ③. 生産効率の改善による収益性のアップ

多様なビジネスチャンスの追求

- 従来型のシール・ラベル関連事業は、国内外を合わせて緩やかながらも成長を目指す
 - ⇒①. 国内製造工場の集約による効率化の推進
 - ②. 今後伸長が期待できる東南アジア地域の事業展開を強化
 - ③. 国内新市場の開拓強化

限定的だが成長機会を探る

今期の重点施策



タッチパネル関連製品の受注の強化

- 新技術、新規製品の開発による扱い品目の拡大
- ライフサイクルの長い車載(カーナビ)、デジカメ等の受注強化による業績の安定化
- 生産効率の改善(歩留率の向上、稼働率の改善)

シール・ラベル関連事業の維持

- 関東地区の生産拠点生産品の受注活動の強化
- マレーシア・バンコク子会社と国内営業・製造部門との連携強化による受注拡大と生産効率の改善
- 新技術による新製品の開発と国内新市場の開拓

タッチパネル関連事業①－技術開発



	パネル事業の流れ	加工素材	加工技術	加工難易度
過去～現在	フラットパネル(2D)	ガラス板 樹脂板	平面切削+加飾(印刷・蒸着)	 低 高度
現在の主流	ラウンドパネル(2.5D)	ガラス板 樹脂板	ラウンド切削+平面切削+ 表面処理+加飾(印刷・蒸着)	
将来	曲面加工パネル(3D)	ガラス板 樹脂板	切削+熱曲げ(プレス)+ 表面処理+加飾(印刷・蒸着)	

(当社の技術開発の現状)

- 現在はラウンドパネル需要が主流
- 当社は業界初の試みとして、ハードコート処理前の材料を切削加工し、その後表面処理を施す流れを確立し、スマホの背面パネルに採用されている
- 今後は、表面パネルへと展開予定

ラウンドパネル(2.5D)

曲面加工パネル(3D)



(当社の技術開発の今後)

- 近い将来曲面パネルが主流になる見込
- ガラス板、樹脂板とも熱処理の曲げ加工技術の確立が必要

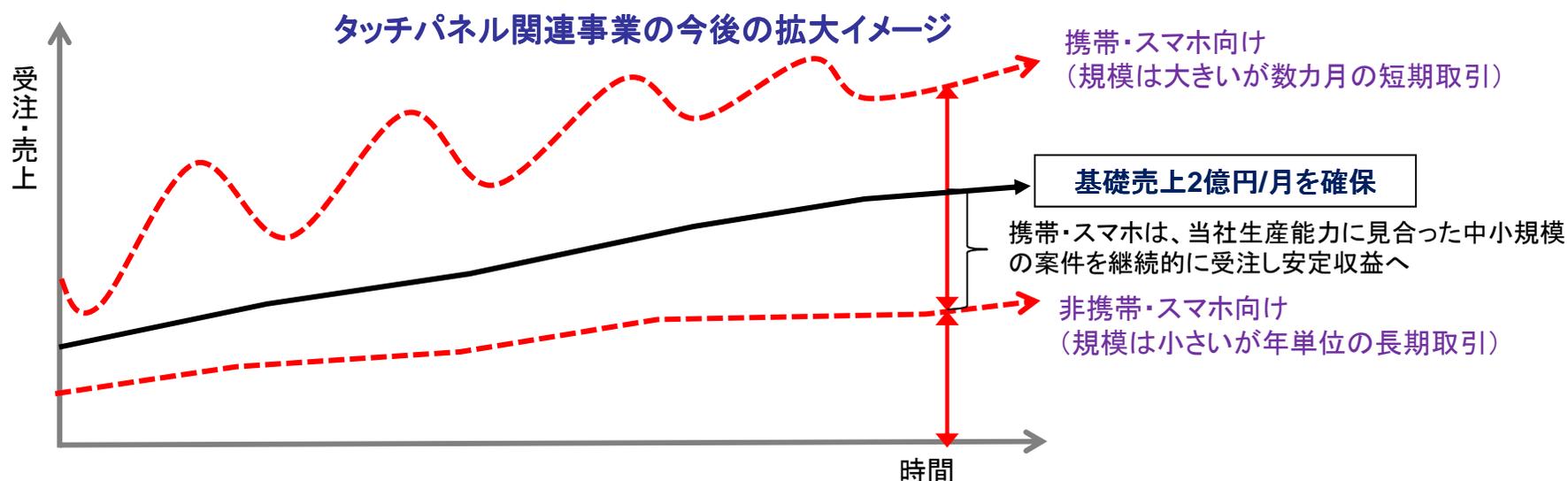


スマホ、カーナビ、産業用パネル等の大型パネルに展開

タッチパネル関連事業②ー受注活動



スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 樹脂ラウンドパネル(2.5D) 17/03期上期より量産開始 ➤ ガラスラウンドパネル(2.5D)の量産案件獲得 17/03期下期より売上に寄与
デジタルカメラ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日系大手メーカー、一眼レフカメラ向けパネルの量産受注は継続
カーナビ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ カーナビ向けフラットパネルの量産受注は継続
その他	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゲーム機向けカバーガラスの量産受注は継続 ➤ 医療機器用モニター、電子公告板、魚群探知機等、産業用の大型タッチパネル向けカバーガラス受注



タッチパネル関連事業③ー生産効率の改善

- アクリル樹脂板の切削工程の内製化により、印刷⇒切削⇒検査のワンストップ化を確立
 - ⇒コストダウンと短納期化による差別化を図り、受注増を図る
- 材料費の削減、人員配置の適正化による人件費削減等のコストダウンの強化
- 外注指導も含め加工工程(切削工程の削りかすの除去、パネルの傷防止等)の改善により、歩留率の改善強化
- 案件毎の協力会社の開拓
 - ⇒ { 小型ガラス加工 ----- 中国加工メーカー
 - 大型ガラス加工 ----- 日本加工メーカー

シール・ラベル関連事業①



(国内)

- 関東地区の生産拠点生産品の受注活動の強化
 - ▶統合後の長野工場生産品の受注活動の強化
 - ⇒ 月額生産額 現状4,000万円を4,500~5,000万円へ
 - ▶川越工場の新鋭機生産品の受注活動の強化
 - ⇒ 月額生産額 現状3,500万円を4,000~4,500万円へ

(海外)

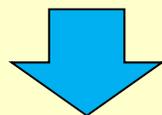
- 海外子会社と国内営業・製造部門の連携強化による受注拡大と生産効率の改善
 - ▶バンコク子会社の本格稼働の早期化とマレーシア子会社の生産効率の更なる改善
 - ⇒ このための国内営業部門、製造部門の支援強化
 - ▶中国においては、電池パック分野など一部印刷技術を活かした加工製品の取り込みで受注増に繋げる

シール・ラベル関連事業②



● 新技術による新製品の開発と国内新市場の開拓

- ▶ 転写印刷機器の技術開発による新製品開発
- ▶ 化成品等の取込みによるPC向け等、機構部材への展開



以上の商材により医療、アミューズメント等の分野を積極的に開拓

転写印刷機器製品



化成品製品



中期数値目標



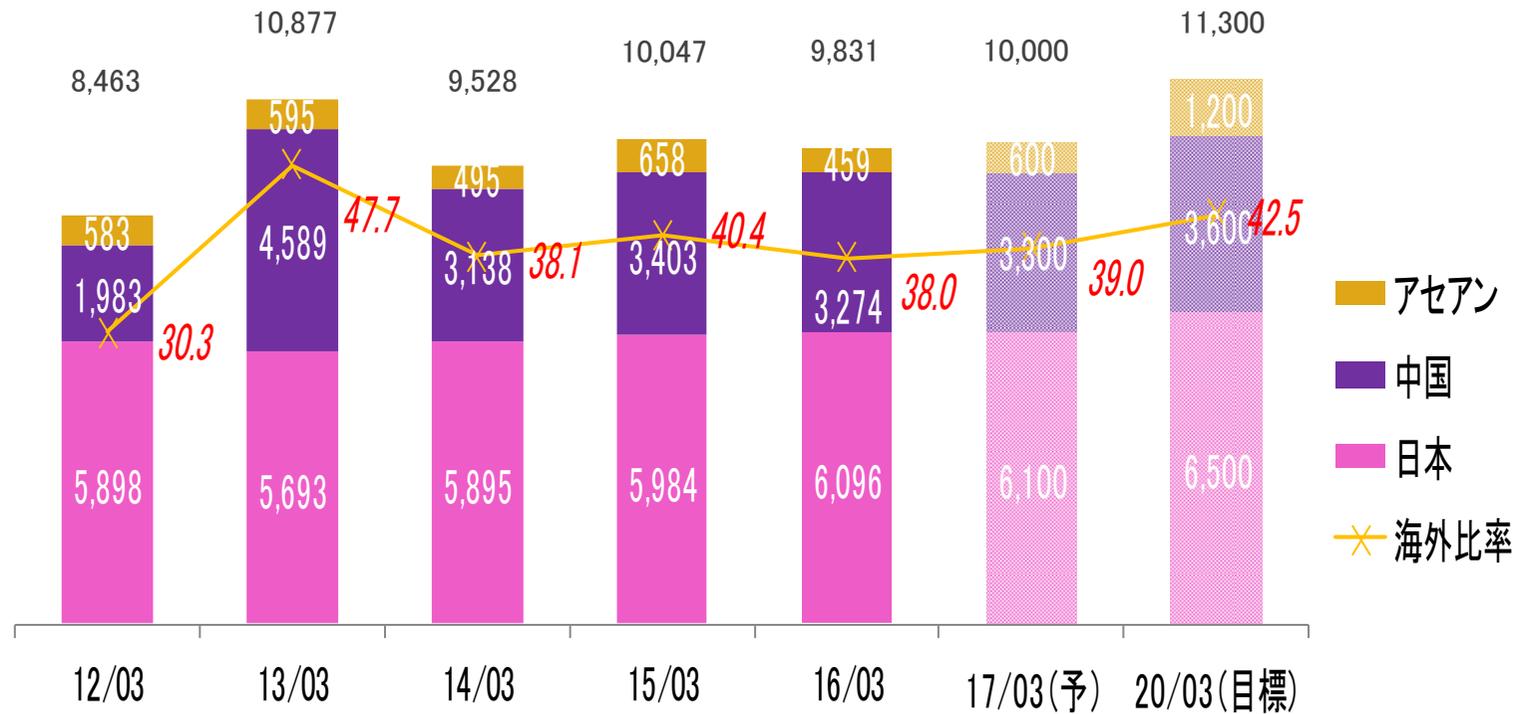
※ 昨年の中期数値目標を2年間後倒し

海外展開の現状と今後の目標



地域別売上高推移

(百万円, %)



監査等委員会設置会社へ移行



移行の理由

- 取締役会の監督機能の強化
- 経営意思決定の迅速化

取締役会の構成

業務執行取締役(5名) + 監査等委員取締役(3名)
うち2名は社外取締役

移行の時期

平成28年6月29日開催予定の第56回定時株主総会において、必要な定款変更について承認頂き、同日付で監査等委員会設置会社に移行する予定

株主還元・資本政策について



配当について

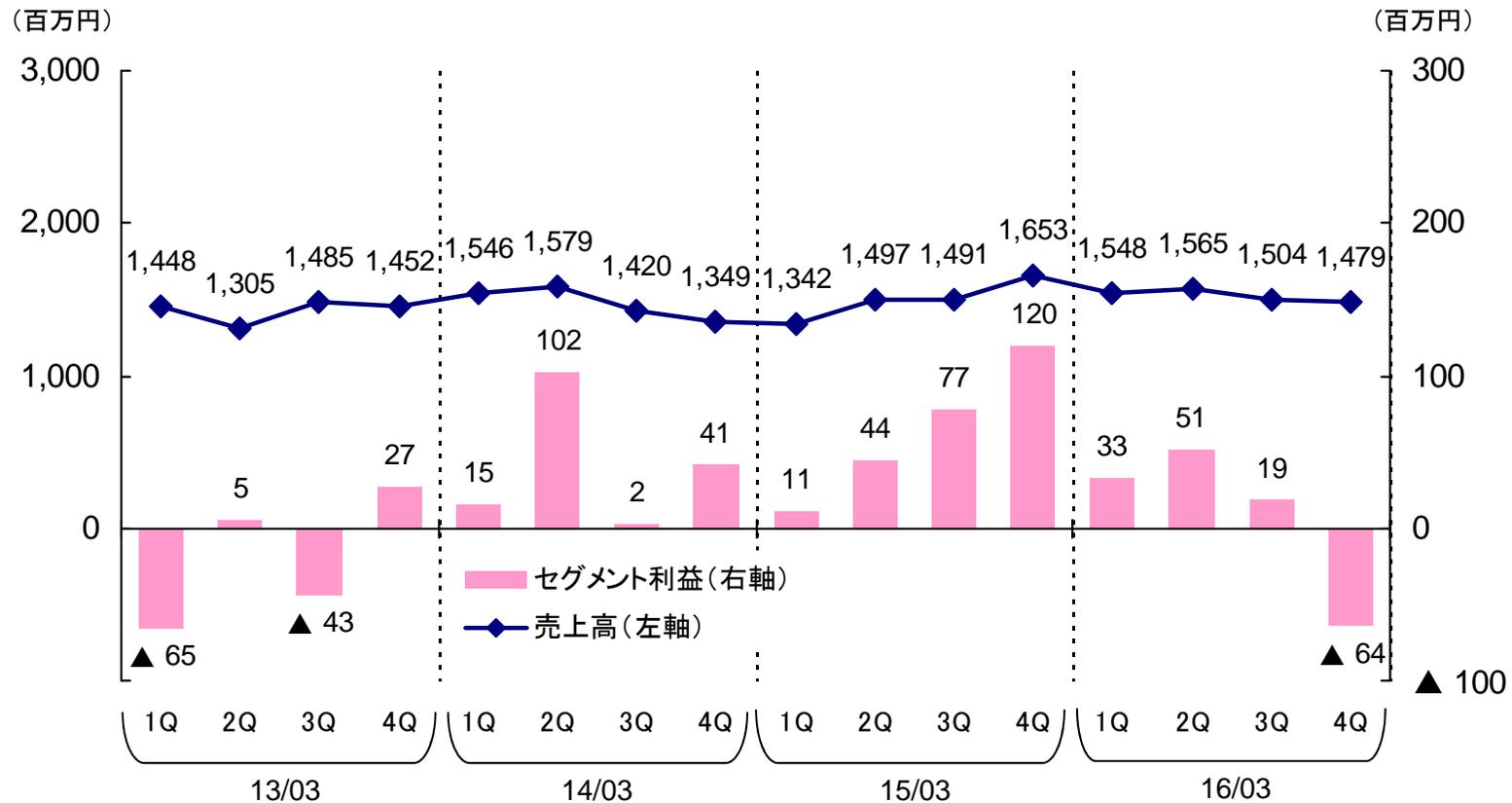
08/03期実績	13円	(13円の安定配当を継続)
09/03期実績	7円	(最終損失にともない減配)
10/03期実績	10円	(当初予定 普通配13円 ⇒ 普通配7円、50周年記念配3円)
11/03期実績	7円	} 収益状況・財政状態等を考慮し、7円配を継続(予定)
12/03期実績	7円	
13/03期実績	7円	
14/03期実績	7円	
15/03期実績	7円	
16/03期見込	7円	
17/03期予想	7円	

補足資料

日本セグメント四半期業績推移



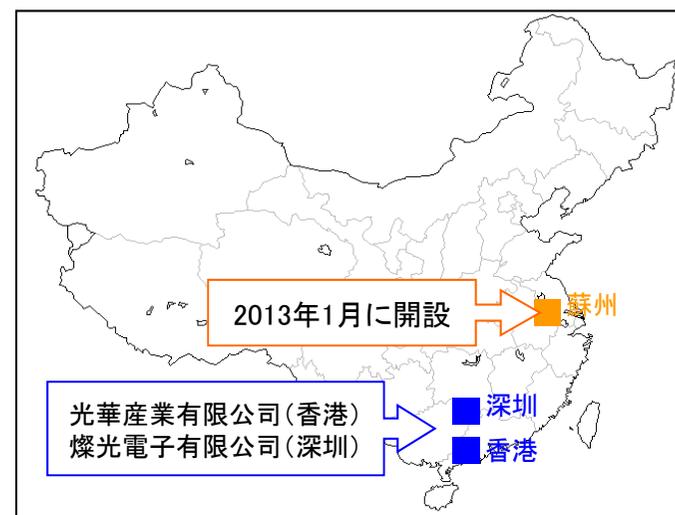
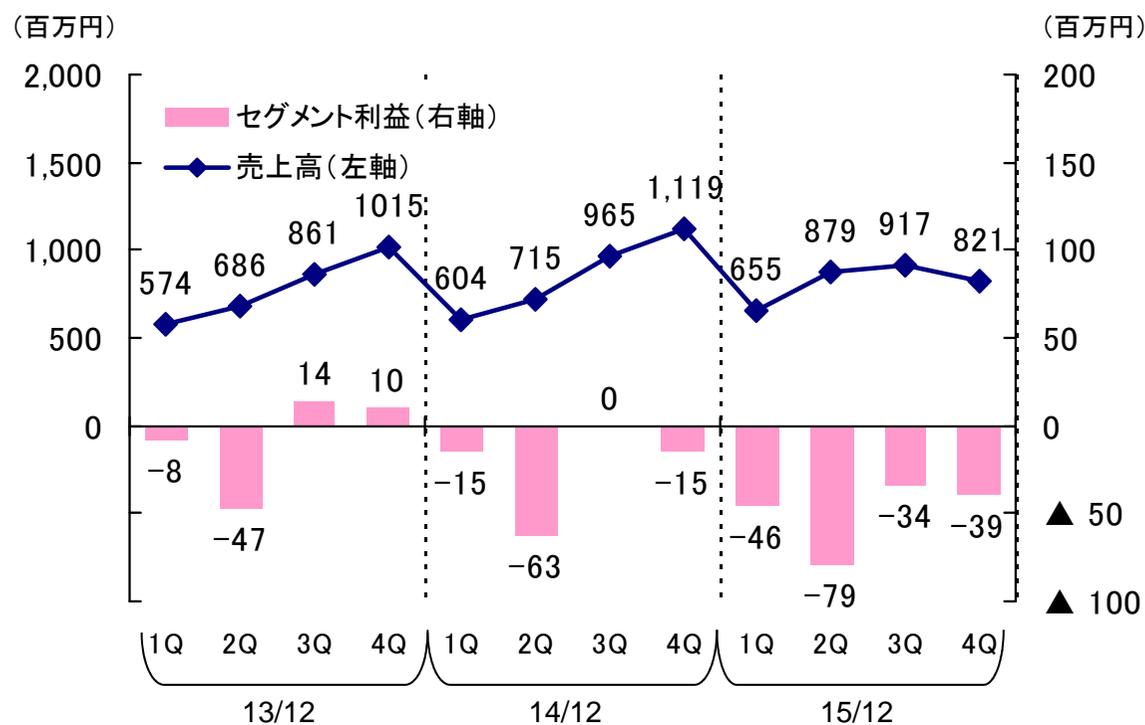
日本セグメント 四半期売上高・経常利益の推移



中国・光華産業の四半期業績推移



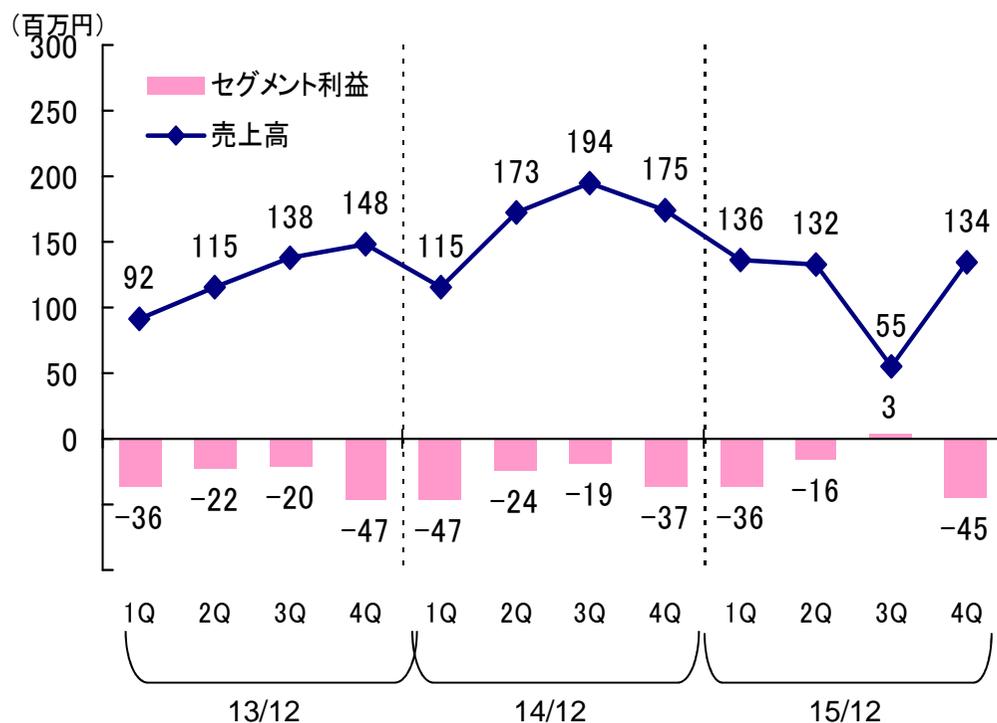
中国地域 四半期売上高・経常利益の推移



アセアン地域の四半期業績推移



アセアン地域 四半期売上高・経常利益の推移



本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IRお問合せ

取締役経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp